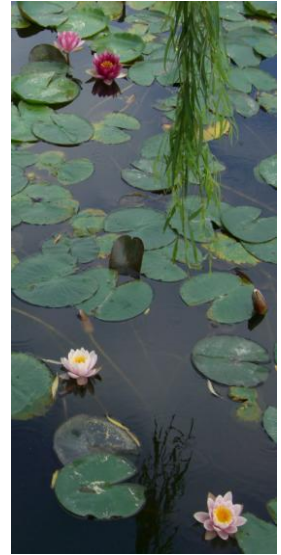


平和への旅路

九月中旬、雲間に青空の覗く松本城の広場に入ると、月見櫓は漆塗装のため白い幕で覆われていたが、久しぶりに天守閣に上り、観光客気分を味わった。

埋みの橋を渡り、お堀に咲く色とりどりの睡蓮の花を眺めながら写真を撮っていると、オートバイに乗った二人連れの外国人が、カメラを差し出してスナップを求めてきた。



イタリア人らしく見えたので、思い切つて「ローマからですか？」と話しかけてみた。片言の英語で話していると、近くにいた観光客がイタリア語に堪能とわかり、通訳をもらった。

八月三日にベネチアを出発、チェルノブイリからシベリア鉄道沿線を横断してサハリンから稚内へ。目的地の広島に向けての旅の途中とのことであった。原爆の子「佐々木禎子さん」に、イタリアの子供たちが折った千羽鶴を届けるためのプロジェクトチームの一員であったのだ。

絶え間なく続く国際紛争、平和への熱い願いを携えて走り続ける旅人に、深い感銘と驚きを覚えた。ほんのひと時の出会いであったが握手をして別れた、後で弁護士さんとお医者さんであることを知った。チェルノブイリにご縁の深い菅谷市長が、ご存知であったかどうかは定かでない。

帰宅後、頂いた名詞をもとに、イタリアに向けて写真とメッセージを送った。日本語であるから、ちんぷんかんぷんかもしれない。妻に「イタリア語の返事が来たらどうするの？」と笑われてしまった。その後、私の期待もむなしく音沙汰はない。

小栗 陸生

